NIE実践報告

1．タイトル：☆「伝え合う」ということ

2．学校名

東京都板橋区立高島第三小学校

3．実践者名（代表者名）

渡辺 友佳子

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　37人

6．単元（本時の学習課題）名

「伝え合う」ということ

7．目標（狙い）

パラリンピックについての新聞記事を選び、読んで分かったことや考えたことを皆の前で話す。また、話を聞いたり読んだりして興味をもったことについて進んで情報を集め、相手にわかりやすい新聞を書く

8．評価の視点

（話す・聞く）パラリンピックについて、話の中心に気をつけて、相手に伝えることができたか。
（書　　く）調べたことを、わかりやすく新聞にまとめることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「伝え合う」ということ（教科書関連教材：光村図書）9時間
「新聞記者になろう」　（教科書関連教材：光村図書）7時間　　合計16時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①ウェビングで「障がい」についてのイメージを出し合う。（1時間）
②教材文『「伝え合う」ということ』を読み、障がいをもつ人の生活について学ぶ。（3時間）
③パラリンピックのＶＴＲ資料を視聴し、パラリンピックについて関心をもつ。（1時間）
④パラリンピックに関する記事のスクラップ作りをする。（1時間）
⑤スクラップ記事を紹介するスピーチの準備をする。（2時間）
⑥スピーチ発表会をする。（1時間）
⑦障がいをもつ人についてさらに関心をもったことをグループで調べる。（3時間）
⑧グループで新聞にまとめる。（3時間）
⑨新聞を読んで、感想を伝え合う。（1時間）
（留意点）
学校や家庭にある新聞の中から、自分が興味をもった記事を切り抜いてスクラップし、なぜ興味をもったのかメモしておくように指導する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

パラリンピックが始まる前に、障がいやパラリンピックについて予備知識をもつことにより、障がいをもつ人について興味・関心をもって調べたり、発表したりすることができた。

12．成果と課題

タイムリーな教材を選ぶことで、児童の興味・関心を高めることができた。また、多くの情報の中から、自分が伝えたいことだけを選ぶ学習をすることで、情報の選択についても触れることができた。しかし、障がいやパラリンピックについての基礎知識のない児童にとっては、知らない言葉や漢字が多い新聞記事は難しく感じたようだ。基礎学力・基礎知識の差を大きく感じ、今後の課題となった。